

2019年度 一食福島復興支援先一覧

団体名/ 活動拠点	申請事業名	申請内容
一般社団法人GDM ふくしま(福島市)	浪江町における青空市場運営及び、大熊町での花植活動	浪江町役場前及び公営住宅集会所前にて農作物販売の青空市場の開催。浪江町役場前スーパーオープン以後は、浪江町公営住宅集会所前での野菜販売及び大熊町に野菜の配達及び花植活動を実施。
一般財団法人ふくしま百年基金(福島市)	福島復興基金(仮称)創設に向けた寄付キャンペーン事業	<ul style="list-style-type: none"> ・基金への寄付募集キャンペーン -SNS等を活用したウェブ上での寄付募集 -企業、NGO等を対象とした営業活動 -複数回の寄付募集イベント(オフライン) ・キャンペーンに活用する団体ウェブサイト及び寄付募集特設ウェブサイトの作成 ・キャンペーンに活用する団体パンフレット及び寄付募集パンフレットの作成
エチカ福島(福島市)	福島の復興を考える対話の場づくり事業	東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、福島に住み、福島のことを考えていくために広く市民が集い、粘り強く思考を持続するための機会を提供する活動。主に福島県内での講演・対談・ワークショップを主たる内容とする。
NPO法人つなぎteおおむた(福岡県大牟田市)	福島・福岡 つながりの場づくり事業	<ol style="list-style-type: none"> ① SNSを活用したタイムリーで正確な福島県内および避難先の情報の発信。 ② 各種イベントでの写真展「3.11からの軌跡」および物販の開催。 ③ 避難者・移住者を対象とした交流の場「お茶っこの場」の定期的な開催。
特定非営利活動法人福島県有機農業ネットワーク(二本松市)	福島の農家を巡るスタディツアー及び農と食の学校事業	復興の進行具合によって違う農家の状況を現地で直接聞くことで、地域や農業の復興について考える機会を作る。小冊子「のらくら」を通じて、来福できない人にも復興状況だけでなく福島の農的暮らしの豊かさを伝える。これらの総括とつながりを強めるために首都圏にて2月に合同交流会を開催す
甲状腺がん支援グループ・あじさいの会(会津坂下町)	小児甲状腺がん患者・家族の情報共有および啓発・QOL向上事業	<ol style="list-style-type: none"> 1) カフェ事業(交流・学習会および保養事業)・・・概ね2ヶ月1回程度 患者同士が交流し、悩みの解消をはかるとともに、最新の治療情報・福島県の甲状腺検査の最新動向などを共有する。また、医療保険や財政面、学業・就職に関する学習会を開催し、将来の生活に関する不安を解消する。また保養を実施する。 2) キャンペーン事業(甲状腺患者に関する啓発事業)・・・年1回 啓発イベントを開催し、小児甲状腺がん患者の思いや実情を、一般市民に対して伝える。 3) アドボカシー事業(検討委員会・学術会議などへの参加および国・県との対話) 甲状腺がんの治療に関する最新情報を収集や県の支援策等に関してするとともに、当事者の状況が改善するよう、県、国、議員らと意見交換を行う。
NPO法人ふくしま30年プロジェクト(福島市)	原発事故風化防止への記録・継承事業	<ol style="list-style-type: none"> ① 弊法人がこれまで継続してきた市民視点での放射能測定結果と、この活動に携わった関係者や利用者の語り得ない記憶・経験を記録に残すことで、市民による原発事故風化を防ぐための放射能測定活動・証言記録誌を作成する。 ② 放射能測定活動・証言記録誌発行にあたって、その意義をテーマに勉強会と公的施設の見学ツアーを開催する。また、首都圏では発行後に発刊イベントを開催する。 ③ 放射能測定活動・証言記録誌の配布については、福島県内、及び首都圏で活動している協力団体に配布してもらう。また、福島県内の学校及び図書館へ寄贈する。
「フクシマの声を全国に、世界に届ける」実行委員会(東京都)	写真展と講演・ワークショップによる福島理解プロジェクト	昨年度は豊田直巳の写真展『フクシマ～尊厳の記録と記憶』の開催を軸に活動を展開して来たが、今年度は枠を広げ福島県内のアマチュアの写真家(社会人・高校生)への支援も行う。今年も写真展の開催に併せ、被災者・避難者による公開の講演+ワークショップを実施する。
特定非営利活動法人市民科学研究室(東京都)	福島県からの避難を理解するための福島県外での中学・高校生向け教育(ワークショップ)プログラムの開発と実践	<ol style="list-style-type: none"> ① ワークショップの実施 関東圏の中学校、高等学校の10箇所でワークショップを実施する。2018年度に実施したワークショップや交流イベントで知り合うこととなった、江東区の団体(「避難されている方たちと結ぶ江東の会/東北サポーターズ」)ならびに文京区の団体(「ご近所 de BOSAI 3.11から未来へ!」)に協力していただき、地元の公立中学校や高等学校への働きかけを行い、ワークショップの実施につなげる。 ② 原発事故問題・避難問題・防災問題を語る、予備的なサロンの場を設ける これまでに協力いただいた早稲田奉仕園、文京区の任意団体「ご近所 de BOSAI 3.11から未来へ!」、あるいはワークショップを系統立てて実施する機会を提供して下さった新渡戸文化中学校や明星学園(あるいは実現には至らなかったが、大きな関心を示して下さった東京シューレ葛飾中学校)などをおして、少人数でアットホームな雰囲気、「3.11の経験から何を学ぶか」を語り合える場を設け、避難者を招いたワークショップをさらに新たな場・機会に展開していく可能性を探る。